

第3回 教育支援コーディネーター・ミーティング（報告）

取組事例と経験交流から考える“コーディネーター”の役割

各地域で活動する教育支援コーディネーターのスキルアップとネットワークづくりのために、研修会「教育支援コーディネーター・ミーティング」を開催しています。

平成24年度第3回の「教育支援コーディネーター・ミーティング」は、主に学校支援活動の取組を始めて数年間の経験をふりかえりつつ、今後の展開等について考える機会として実施しました。



■開催日時、開催場所

平成25年2月21日（木） 14時～17時 於：国分寺Lホール

■対象

教育支援コーディネーター（学校支援コーディネーター、地域コーディネーター）
区市町村学校支援地域本部事業担当者 等

■参加者

大田区(2)、世田谷区(1)、中野区(1)、杉並区(1)、八王子市(6)、昭島市(1)、町田市(16)、小平市(13)、日野市(2)、国分寺市(1)、武蔵村山市(3)、多摩市(6)、羽村市(1) 計54人

■プログラム内容

【話題提供】「コーディネーター」と共につくる学校教育

はじめに、話題提供としてのお話をいただきました。今回は、コーディネーターとして関わり始めて数年間経験してきた立場として、北村明美さん（小平市立小平第三中学校コーディネーター）と、コーディネーターを積極的に導入して共に学校教育をつくる取組をしている学校の立場として、長津芳さん（国分寺市立第七小学校校長）のお二人から事例を提供していただきました。

①コーディネーターの立場から

北村 明美 さん（小平市立小平第三中学校コーディネーター）



北村さんからは、「取組が思うようにできない焦りと不安が高まっていた時に、小平市で発足したコーディネーターの連絡会に参加し、同じ仲間と交流・情報交換をする中で、気持ちにゆとりが生まれ、先生方のことが少しずつ理解できるようになった。そして、今までは一方的に（学校に対して）『仕事がない』と言ってきた私たちの姿勢を反省するようになった。」などのお話がありました。

②学校の立場から

長津 芳 さん（国分寺市立第七小学校校長）

長津さんからは、「子供の夢というのは、人とつながることから生まれるし、そのためのチャンスが必要。そこから興味が広がって、新しい価値観に触れることができ、憧れが持てる。そして、憧れが生きる力になり、自分で『こういう大人になっていこう』という目標をつくることになる。そのためのチャンスを増やすことがコーディネーターの仕事であり、これこそが、コーディネートをしていく最終的な目当てになるのかと考えている。」などのお話がありました。



③【グループワーク】

後半は、10グループに分かれて、各地区のコーディネーターなどあらかじめお願いした方にファシリテート役をしていただきながら、グループワークを行ないました。

このワークでは、前半の話題提供を受けて、「学校や地域においてコーディネーターが認知され、機能していくために、どのような働きかけが有効か、「課題を乗り越えるためにどのようなアクションが行われたのか」といった対応のプロセスを共有することで、コーディネーターにとって何が大切なのかをあらためて確かめ合う場として設定しました。



③【長津先生コメント】

最後に、長津先生から、ワークや参加者の質問用紙に対してコメントをいただきました。

④アンケートから

- 皆さん、同じように悩んだり、考えたりして、心強かった。自分だけの悩みではないということが色々聞けてよかった。考え方が変わった。
- グループの組み合わせが良かったせいか、話し合いがスムーズに進んだ。特にコーディネーター経験が少ない方がいると、自分の活動を振り返ることが出来て有意義でした。
- いろいろなアイデアをもらえた。
- PTAとの連携も必要だと感じた。
- 先生とのコミュニケーションを何とか考えていこうと思った。